

沼田の歴史つくった

河岸段丘

河岸段丘は川が大地を削ることで、平坦な部分と傾斜が交互に現れる階段状の地形です。沼田の河岸段丘は、西は利根川、北は薄根川、南は片品川の侵食によって、約10万年前から形成されました。



城下町づくりの基点となった天王石は、現在、テラス沼田前に置かれている



上位段丘面の末端にあたる道（鍛冶町）

RIVER TERRACE

真田信之が目指した理想の城下町プランとは

沼田城は河岸段丘を地の利として生かした城で、17世紀初頭に真田信之が沼田藩主となり、城下町の基盤づくりや整備を行いました。

沼田頭泰によって材木町・本町・鍛冶町の3町を割り立てられたことが町づくりの始まりで、信之は段丘面に城と城下町を築きました。3町の外周に寺院群を配置し、三光院から神明宮、町割りの中心と

なる天王石にかけて町をつくりました。城と城下町は平行四辺形で、上位段丘面の中に収まるように入念に設計され、今に生きていることが分かります。

大手門から坊新田町への道は、城と江戸を行き来する参勤交代路でした。台地の上は水に恵まれなかったため、隣接する各村より用水を引くことで町場が発展しました。



歴史資料館から河岸段丘を学ぶ



河岸段丘 町割りルーツに



歴史資料館専門委員 原澤直久さん -材木町-

河岸段丘を利用した城下町は全国的にめずらしく、信之の緻密な設計から実現できたといえるでしょう。複数の通りを同間隔で整備した寸法取りや、段丘面の末端などは現在も確認できます。信之の城下町プランに思いを巡らし散策すると楽しいですよ。